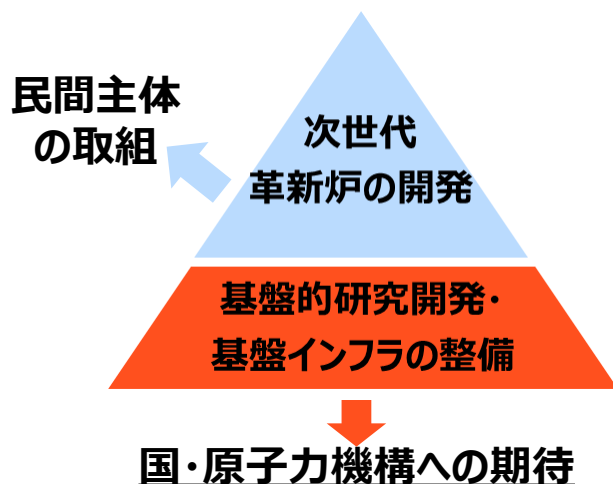


# 次世代革新炉 研究開発基盤検討会の開催について

- 原子力の利用については、安全確保を大前提として、2050年カーボンニュートラルの実現、エネルギー安定供給、エネルギー安全保障などの観点から期待が高まっている。
- グリーントランスフォーメーション実行会議（令和4年8月24日）での岸田総理の指示を踏まえて、関係省庁において、新たな安全メカニズムを組み込んだ次世代革新炉の開発・建設などについて検討が進められているところ。
- 今後の検討に向けて、本検討会において、**次世代革新炉の開発に必要な研究開発や基盤インフラの整備に関する今後の課題について論点の整理**を行う。



高温工学試験研究炉(HTTR)



高速実験炉「常陽」

## 検討のポイント

- 民間を主体とした次世代革新炉の今後の開発に必要な基盤的研究開発や基盤インフラの整備について、  
①研究開発用原子炉、②燃料製造、③バックエンド対策などの観点から、今後10年以内に着手すべき事項を議論
- 次世代革新炉に係る人材育成の課題のほか、原子力機構が大学の知の集約拠点として果たすべき役割等についても検討

## 検討スケジュール（見込み）

- 年内に4, 5回程度開催し、論点を整理  
(第1回会合：10月17日)
- 検討結果については関係審議会等に報告

# 「遅滞解消のための政治決断」

## 2. 「エネルギー政策の遅滞」解消のための政治決断

### 再エネ

- 全国規模での系統強化や海底直流送電の計画策定・実施
- 定置用蓄電池の導入加速
- 洋上風力など大量導入が可能な電源の推進
- 事業規律強化に向けた制度的措置等の検討

### 原子力

- 再稼働への関係者の総力の結集
- 安全確保を大前提とした運転期間の延長など既設原発の最大限活用
- 新たな安全メカニズムを組み込んだ次世代革新炉の開発・建設
- 再処理・廃炉・最終処分のプロセス加速化等の検討

### 電力・ガス

- 電力システムが安定供給に資するものとなるよう制度全体の再点検
- 安定供給の維持や脱炭素の推進を進める上で重要性の高い電源の明確化
- 必要なファイナンス確保への制度的対応等の検討

### 資源確保

- 上中流開発・LNG確保等を含むサプライチェーン全体の強靱化等の検討

### 需給緩和

- 産業界における規制／支援一体での省エネ投資・非化石化の抜本推進等の検討

## 原子力政策の今後の進め方

～2023春

～2024春

2030年

2050年

（今冬まで）

【既に再稼働済】10基（西日本）

- 工事短縮努力、定検スケジュール調整等  
→ **最大9基**の稼働確保

（来夏・来冬～）

【設置許可済】7基（東日本含む）※工事進捗等に差あり

- 安全工事の円滑実施、着実な再稼働  
（高浜1・2、女川2、島根2）
- 地元の理解確保に向けた取組（柏崎刈羽、東海第二）  
－ 国が前面に立った対応、運営体制の改革 等

（20年代半ば～）

【設置許可審査】申請済10基、未申請9基

- 的確な審査対応に向けた相互コミュニケーションの改善
- 理解確保に向けた国の取組・事業環境の整備 等

①再稼働加速（緊急対策）

（2030年20～22%実現）

※官民それぞれの対応加速へ、  
**本年秋にも対応とりまとめ**

②2050CN実現・安定供給  
（政策再構築）

※**本年末までに具体論とりまとめ**

【再稼働の先の展開を見据えた構造的な課題】

- 選択肢の確保：次世代革新炉の開発・建設、運転期間の延長のあり方 等
- 予見性の確保：バックエンドでの国の取組、事業環境整備 等

## 第2回GX実行会議 岸田総理御発言（令和4年8月24日（水））

- 本日も有識者の方々には貴重な御意見を頂き誠にありがとうございました。まず、今日の会議につきましては私自身リモートでの参加となっておりますこととお詫び申し上げます。
- その上で、本日はGX実現の大前提でありますエネルギー安定供給の再構築について御議論いただきました。ロシアによるウクライナ侵略によって、世界のエネルギー事情が一変し、かつグローバルなエネルギー需給構造に大きな地殻変動が起こっている中で、我が国は今後の危機ケースも念頭に、足元の危機克服とGX推進をしっかりと両立させていかなければなりません。岸田内閣の至上命題として、グローバルにどのような事態が生じて、国民生活への影響を最小化するべく、事前にあらゆる方策を講じていきます。
- 電力需給ひっ迫という足元の危機克服のため、今年の冬のみならず今後数年間を見据えてあらゆる施策を総動員し不測の事態にも備えて万全を期していきます。特に、原子力発電所については、再稼働済み10基の稼働確保に加え、設置許可済みの原発再稼働に向け、国が前面に立ってあらゆる対応をとってまいります。
- GXを進める上でも、エネルギー政策の遅滞の解消は急務です。本日、再エネの導入拡大に向けて、思い切った系統整備の加速、定置用蓄電池の導入加速や洋上風力等電源の推進など、政治の決断が必要な項目が示されました。併せて、原子力についても、再稼働に向けた関係者の総力の結集、安全性の確保を大前提とした運転期間の延長など、既設原発の最大限の活用、新たな安全メカニズムを組み込んだ次世代革新炉の開発・建設など、今後の政治判断を必要とする項目が提示されました。
- これらの中には、実現に時間を要するものも含まれますが、再エネや原子力は、GXを進める上で不可欠な脱炭素エネルギーです。これらを将来にわたる選択肢として強化するための制度的な枠組、国民理解を更に深めるための関係者の尽力のあり方など、あらゆる方策について、年末に具体的な結論を出せるよう、与党や専門家の意見も踏まえ、検討を加速してください。
- ウクライナ情勢や中国経済の動向によっては、今年や来年の冬に供給リスクを抱えるLNGについては、万が一の危機ケースも念頭に、事業者間融通の枠組みの創設やアジアLNGセキュリティ強化策に早急に着手するとともに、緊急時にも対応できる枠組を検討し、早急に結論を出してください。
- 次回以降の会議では、成長志向型カーボンプライシングの基本的な枠組、産業構造転換・グローバル戦略などGXの加速・前倒しに向けた議論を加速させ、年末には、具体的なGX戦略・成長戦略の取りまとめを行ってまいります。